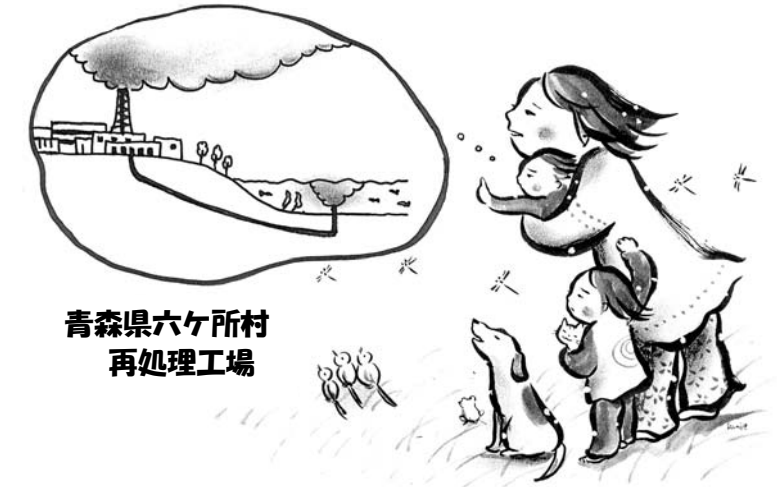


核燃料再処理工場

本格稼働迫る！



長期にわたる放射能汚染

六ヶ所村の再処理工場から 海へ空へ

放射能が 放出されていることを知っていますか？

核燃料再処理工場とは？

- ◎ 全国各地の原子力発電所で燃やした使用済み核燃料から、プルトニウムを取り出す化学工場です。
- ◎ その過程で出る放射性物質を、高さ 150mの排気筒から空へ、沖合 3km、水深 44mの放出管から海へ排出します。
- ◎ 原子力発電所が廃液を海へ捨てる際には、放出口での濃度制限がありますが、再処理工場にはありません。

**本格稼働（2008年夏予定）で、
原子力発電所1年分の放射性物質を1日で放出！**

※原子力安全・保安院（2001）、事業変更許可申請書（2001）より、100万KW級原子力発電所（大飯原発）と六ヶ所再処理工場の管理目標値を比較



放射性物質は

- ☞ 長期にわたり、放射線を出します。（ヨウ素 129 の半減期は 1600 万年）
- ☞ 放射線を出して遺伝子を傷つけるため、細胞分裂の盛んな胎児や子どもに、特に悪影響を及ぼします。
- ☞ 放射性のヨウ素やプルトニウム、セシウム等による農水産物の汚染が心配されます。

【私たちのお願い】

豊かな自然や食の安全が、脅かされています。
現在や未来の子どもたちの健やかな成長が損なわれようとしています。ですから、

本格稼働をしないでください！！

「工場直下に活断層 M8級の地震の恐れも」（2008 地形学者の指摘）

私たちは 本格稼働の中止を願っています



漁業者・消費者・サーファーが「海を放射能で汚さないで！」集会
(2008年1月27日 東京・日比谷公園 2600人)

約100万筆の署名 国へ提出

「三陸の海を放射能から守る岩手の会」が、「海に放射能を流さないこと」を求める署名を、2007年11月と2008年1月に、計約10万5千筆、国へ提出しました。さらに1月と3月には、岩手県内の6漁協、全国の7消費者団体、サーファーが、本格稼働の中止を求めて、計約88万筆の署名を提出しています。

請願 岩手県内29市町村で採択

「豊かな三陸の海を守る会」が、重茂漁協や岩手県消費者団体連絡協議会と連名で、「放射能海洋放出規制法(仮称)」を求める請願(規制法の制定・モニタリングの結果公表・放射能除去装置の設置)を行い、岩手県内35市町村中29市町村ですでに採択されています。また、岩手県議会への請願も準備中です。

六ヶ所核燃料再処理工場の問題



◎ 大量の放射能を長期にわたって放出

再処理工場は、空や海へ放射性物質を放出します。その量は原発(100万KW級)の約379倍、つまり、原発1年分の放射能をたった1日で放出することになります。

再処理工場がこれほど大量の放射能を放出するのは、プルトニウムを取り出すために、使用済み核燃料を切り刻み、閉じ込めていた放射能を解放する工程があるからです。そして、原発なみに規制すると稼働できなくなるため、再処理工場が海に放射能を放出する際には濃度制限がありません。また、クリプトン85やトリチウムの除去装置は、主として経済的な理由からつけられておらず、全量放出されます。本格稼働すると、このような大量の放射能が40年もの間、流し続けられます。

◎ 工場直下に活断層 M8級の地震の恐れ

渡辺満久東洋大教授(地形学)が、工場直下に「これまで未発見だった長さ15キロ以上の活断層がある可能性が高い」「マグニチュード8級の地震が起きる恐れがある」と発表しています(2008年5月)。再処理工場は、本当に安全なのでしょうか？

◎ プルトニウムの行き先は不透明

再処理工場は、このように環境汚染をおこし、膨大な費用(建設費2兆1930億円、今後40年の再処理に19兆円)をかけて、年間8トンのプルトニウムを取り出します。しかし、それを利用するための要となる高速増殖炉計画は見通しが立たず、MOX燃料(プルトニウムとウランの混合酸化物)を既存の原発で燃やすプルサーマル計画もなかなか進まぬ現状です。しかも、日本はすでに約45トンのプルトニウムを保有しています。